

平成 25 年度 事務事業マネジメントシート [ 事後評価 ]

会計	款	項	目	事業コード	事業名
一般	09	01	01	0404	応急手当普及事業

事業期間	<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返	<input type="checkbox"/> 期間限定	[平成 年度 ~ 平成 年度]
------	---	-------------------------------	-----------------

《事業目的》  
 応急手当の普及

《事業開始の背景》  
 応急手当普及啓発推進実施要綱制定により、バイスタンダー（その場に居合わせた人）を育成し救命率及び応急手当実施率の向上を図るとともに、観光都市花巻の宿の安全性を高める施策展開。

《事業概要》  
 ○ 応急手当の普及推進  
 ・ 上級救命講習 2回（19人受講）  
 ・ 普通救命講習 39回（864人受講）  
 ・ 一般救命講習（実技・入門コース含む） 133回（4,200人受講）  
 ・ 普及員講習（再講習含む） 3回（62人受講）  
 ○ 「安心な宿」標章交付の奨励  
 ・ 未交付施設に対する標章交付の奨励  
 ・ 交付施設に対する定期的なフォロー

市民参画の有無 [ 対象外 ]

《成果指標》

項目	単位	区分	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(計画)
① 応急手当実施率（心肺蘇生：暦年）	%	目標	42.0	43.0	43.0
		実績	35.5	39.7	
②		目標			
		実績			
③		目標			
		実績			

分野	担当部(機関)	担当課(機関)	担当係長	(内線)
暮らし	消防本部	警防課	戸来清彦	

	25年度	当初(現計)	補正	25年度	26年度
事業費	1,318				
財源内訳	国県支出金				
	地方債				
	その他				
	一般財源	1,318			

《事業手法の詳細》…概略図による事業手法の詳細と事業費の内訳を記載すること

○ 応急手当の普及推進  
 講習会の開催

種別	講習内容	時間
一般救命講習 入門コース	応急手当の意義、胸骨圧迫、AEDの使用法	1時間30分～
普通救命講習 (I・II・III)	上記講習に心肺蘇生法（①成人対象 ②小児から新生児を対象）、大出血の止血法、異物除去法、効果測定を追加	3時間～4時間
上級救命講習	普通救命講習に傷病者管理法、熱傷の手当、搬送法を追加	8時間
普及員講習	事業所内の従業員に応急手当の指導普及に従事するための知識の習得	8時間×3日

○ 講習用資器材の充実 1,318千円  
 講習テキスト、心肺蘇生法リーフレット、人工呼吸用マスク、指導用マネキン 8体、AEDトレーナー 5台

応急手当普及事業（総括表）

平成 25 年度 事務事業マネジメントシート [ 事後評価 ]

会計	款	項	目	事業コード	事業名
一般	09	01	01	0404	応急手当普及事業

総合計画	政策 5	都市内分権構築で市民参画・協働のまちづくり	施策 5-3	防災体制・減災対策の拡充
目的	応急手当の普及			
対象	一般市民及び市内事業所の従業員			
意図	救急車が到着するまでに、傷病者に応急手当ができるようになることで、傷病者への応急手当の実施率向上を図り救命効果を高める。			

《事業概要》…上記目的を実現するための事業手法を記載すること

○ 応急手当の普及推進

- ・ 上級救命講習 2回 (19人受講)
- ・ 普通救命講習 39回 (864人受講)
- ・ 一般救命講習 (実技・入門コース含む) 133回 (4,200人受講)
- ・ 普及員講習 (再講習含む) 3回 (62人受講)

○ 「安心な宿」標章交付の奨励

- ・ 未交付施設に対する標章交付の奨励
- ・ 交付施設に対する定期的なフォロー

市民参画の有無 [ 対象外 ]

市民協働の形態  共催  実行委員会・協議会  事業協力・協定  後援・協賛  補助・助成  委託

活動指標 (上記「事業概要」に対応)	単位	区分	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(計画)
① 応急手当講習受講 (暦年)	人	計画	4,500	4,500	4,500
		実績	4,502	5,146	
② 「安心な宿」標章交付率	%	計画	100	100	100
		実績	86	86	
③		計画			
		実績			
成果指標 (上記「意図」に対応)	単位	区分	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(計画)
① 応急手当実施率 (心肺蘇生：暦年)	%	目標	42.0	43.0	43.0
		実績	35.5	39.7	
②		目標			
		実績			
③		目標			
		実績			

要因分析

達成度  目標値より高い  概ね目標値どおり  目標値より低い

- ・ 応急手当講習会開催の増回
- ・ 応急手当講習受講者の増加
- ・ 応急手当の重要性についてのPR

《環境変化、意見・要望》…環境変化はないか？ 意見や要望が寄せられていないか？  
 応急手当の重要性について市民の関心が高まっており、講習会の開催要望や受講希望者が増えている。

目的妥当性	公共関与の妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input type="checkbox"/> 妥当でない	・ そばに居合わせた人が、けがや病気の悪化を防いだり、命を救うために、一般市民や事業所従業員が応急手当の知識や技術を習得することが必要である。
有効性	成果の向上余地 <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある <input type="checkbox"/> 向上余地がない	・ 講習会の受講者が多数の場合や講習会が重複する場合、指導する職員が不足する状況にあるため、職員の確保が必要である。
効率性	事業費・人件費の削減余地 <input type="checkbox"/> 事業費の削減余地がある <input type="checkbox"/> 人件費の削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> どちらも削減余地がない	・ 講習会実施にあたっては、資器材 (訓練人形、AEDトレーナー、DVD等) が必要であり、必要最低限のコストであるため削減の余地はない。 ・ 指導者は、救急救命士や救急隊員で専門性を必要とするため委託等は考えられない。
公平性	受益と負担の適正化余地 <input type="checkbox"/> 受益機会の見直し余地がある <input type="checkbox"/> 費用負担の見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 適正である	・ 市民や市内の事業所従業員を対象にしており、適正に行われている事業である。

《総合評価》…上記評価結果の総括

市民に対し応急手当の重要性を周知するため、広報誌やエフエムワン等でPRし講習会への受講を呼び掛けたところ、受講者が増加し応急手当実施率が向上している。今後も市民へのPR活動は重要である。